令和７年度
学校だより

# 晴 る る

R7.10.31　No.7
諫早市立大草小学校
校長　白石　和幸

**【お蔭さまです。】**

この頃、日課としているタ方のランニング中に、ほのかに匂うキンモクセイの香りを感じています。今週に入り朝晩は気温が低くなり、急に肌寒くなりました。季節の変わり目は体調を崩しがちです。子供たちの健康管理はもちろんですが、我々大人も体調管理に気を配りながら、短くなったと言われる『秋』を満喫したいところです。

さて、大草塾の活動の一環として取り組んでおります「米作り体験活動」は、9/30（火）に「稲刈り」、10/14（火）に「脱穀」の体験活動を実施しました。その後、東園の菅原さんに御協力をいただき無事に「籾摺り」までの過程を終えることができました。この後、年末に「餅つき」も予定されていますが、田植えの前の、種もみから苗を育て、田起こしや代掻きなどの田んぼの準備からこれまで、木下塾長、学校運営協議会冨永会長、地域コーディネーターの橋本様、東西園地区自治会長山口様、野副地区自治会長菅原様、御協力をいただいた保護者の方々をはじめ、地域にお住いの「大草小学校応援団」の皆様方の温かいサポートによって、米作りに係る一連の体験が可能となっていることに気付かされると共に、関係の皆様方に感謝の気持ちで一杯です。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。また、今後も「十六善神社神待祭（11/3）」「チャレンジウォーク（11/14）」「餅つき・門松作り（12/13）」「大草発表会（12/21）」等々、学校・地域に関わる行事が予定されております。引き続き、地域の宝である「28名の大草っ子」の健やかな成長を、それぞれのお立場で支えていただきたいと思います。どうか、奮って御参加ください。応援団である皆様方の温かい笑顔と交流は、子供たちにとって「郷土愛」「ふるさと大草への誇り」につながることと固く信じております。

**『大草小ならではの学び方』**

9月26日（金）と10月8日（水）に授業研究会を実施しました。どちらも、この規模（全校児童28名という小さい学校）ならではの、よさと課題に迫るために実施しました。

一つ目の授業は、北海道教育大学の宮原准教授にお越しいただき、1年生馬場学級の算数科の授業の実際を、本校の教師と伊木力小学校・琴海中学校の先生方で観合いました。子供たちは、10名以上の参観者があり、普段と異なる雰囲気の中でも、普段どおり、いきいきと学習活動に臨んでいました。特に、問題に対して、どの子も「自分事として挑む姿」が印象的でしたし、これまでに担任の馬場先生が、子供たちが安心して学べる環境づくりに取り組んできた成果を感じました。授業が終わった後に、教師の意図的な働き掛けや、子供たちの活動と理解の状況に応じたサポートの効果について協議を行いました。会の終わりに、宮原先生から子供の姿（表情や言動・・・担任の死角となる場面も含めて）を拠り所として、「この場面では、こんなことを思っていたのかもしれない。」「なぜ、この行動や発言があったのか？」という視点を基に、子供たち一人一人の特徴や性格等を理解する必要性や学びの主体である子供たちの目線・立場を大切にしながら、授業を準備し、授業をコーディネートする重要性について御教示いただきました。

二つ目の授業は、長崎大学教育学部附属小学校の前山悠希先生を講師としてお招きし、初対面の子供たちを相手に授業を行う「出前授業」と、授業後に「複式学級における授業の組み立て方」というテーマで講話をいただきました。「出前授業」では、田尻学級の3・4年生の算数科の複式授業を見せていただきました。教科は同じでも、異なる内容を学習するので、教師が直接指導できる場面と、逆に子供たちだけで活動（問題を解決するための）する場面（「ガイド学習」）があります。この時の進行役を「ガイド」と呼んでいます。3年生も・4年生もガイドを中心に自分たちで学び合う様子が見られ、これまで、担任の田尻先生と複式授業における「学び方」を追究してきた成果と成長を感じました。その後の講話では、附属小学校での実践を基に、「複式教育の良さ」「少人数・複式学級における効果的な指導」について助言をいただきました。特に、子供たちだけで学習を進める「ガイド学習」には、「主体性を引き出す効果」「協働する力の育成」につながる可能性を痛感しました。

この二つの授業研究会で学んだことを、今後の授業改善と子供理解の深化に生かしていきたいと思います。